

令和8年3月27日

各位

会社名	株式会社アイビー化粧品
代表者名	代表取締役社長 白銀 浩二 (コード番号 4918 東証スタンダード)
問合せ先	常務取締役 経営管理部 部長
役職・氏名	中山 聖仁
電話	03-6880-1201

日本薬学会第146年会における研究発表のお知らせ (1)

株式会社アイビー化粧品（本社：東京都港区赤坂 社長：白銀浩二）は、令和8年3月27日～29日に開催の日本薬学会第146年会において、下記の研究発表を行ったことをお知らせいたします。

記

1. 研究発表タイトル

メラノサイト-マクロファージ相互作用を標的とした皮膚シミ改善およびナノキャリア開発
A Novel Approach for Skin Hyperpigmentation Improvement via Modulating
Melanocyte-Macrophage Interactions and Nanocarrier Development

2. 概要

本研究は、慶應義塾大学大学院理工学研究科、工学院大学先進工学部、山口大学大学院医学系研究科、同志社大学生命医科学部との共同研究です。老人性色素斑や肝斑、後天性真皮メラノーシス（ADM）では、紫外線による表皮メラノサイトのメラニン過剰合成に加え、真皮に蓄積したメラニンが色素沈着に関与することが報告されています。

皮膚（特に真皮）に存在するマクロファージは真皮のメラニンを貪食・分解することで、色素沈着抑制に寄与しますが、メラニンを貪食したマクロファージ（メラノファージ）はメラニン分解能や遊走能などの機能が低下し、肝斑やADMの慢性色素沈着に関与します。また、メラノーマにおいては、CX3CR1-CXCL1L系を介し、マクロファージとメラノーマが直接相互作用することも報告されています。以上のように、メラノサイトとマクロファージは密接に関連することにより、皮膚のホメオスタシス、疾患の発症・増悪を制御しています。

メラノサイトのメラニン合成、マクロファージの分極・活性化、メラノファージのメラニン分解機構には、転写因子NF- κ B、STAT3、Nrf2等が関与するため、これらを標的とした有用成分はシミ改善や疾患治療に応用できる可能性があります。

そこで、本研究は、メラノサイト-マクロファージの相互作用に着目したシミ改善や疾患治療を目指し、①メラニン貪食による活性化状態と遊走能の変化、②マクロファージとメラノーマ双方に作用しうる植物由来の有用成分の探索と作用機序の解析、③有用成分の効率的送達を目的としたナ

ノキャリアの作製を行いました。

本研究で得られた結果は、化粧品、医薬部外品、医薬品におけるシミ改善や肝斑・ADMの治療、さらにメラノーマなど皮膚疾患の新規治療法開発に大きく貢献するものであると考えられます。

3. 今後業績に与える影響

現時点では、当期業績への影響はございません。

以 上